



味噌汁の大根どう切るの

皆さんが子どもの頃、小学校四年生で親元を離れ五泊六日の生活をする事と考えられましたか。しかもこの時代にテレビもない！お菓子もない！電子ゲームもない生活！さらに、帰宅して宿題をしてから洗濯にアイロンかけ、朝食の準備、朝六時に起きて掃除をしての毎日。この六日間を乗り越えた子どもたちはスゴイ！と思いませんか？私が子どもの頃、無理な気がします。そんな経験をした子供たちが成長しないわけがない。家族のありがたみや大切さを感じ、

## 「地域の子どもは地域で育てる」

第二十回阿東アドベンチャースクール  
実行委員 山根 浩美



クラフトで写真たて作ったよ！

自分自身の成長を身をもって感じる、そんなアドベンチャースクール（以下「アドスク」に省略）に参加できたことを私は誇りに思います。さて、今年の「アドスク」は十一月二日〜七日に二十一名の児童を迎え行いました。コロナ禍ではありましたが対策をしながら、森のチャレンジコース、野外炊飯、ディスクゴルフなど今年の「アドスク」は休日が三日あったため目いっぱい体験ができるプログラムになりました。



大学生と対戦

悪天候のため中止となったキャンプファイヤーも残念でしたが、みんなが一生懸命考え準備した出し物や、施設の中の明るい場所でしたっけ見られたのは逆に良かったなと思えました。今回特に印象深かったのは、朝食準備です。お味噌汁の具に、やせ細った大根や、お化けみたいなワカメがあったり、ごぼうのさがぎに初挑戦！あつという間に上手になった子、炊飯器の水の量のメモリが、野外炊飯の鍋でお米を炊く時の菜指の第一関節までになっていると気付いた子など、私も驚くことばかりでした。最終日を迎えると、清水寺の今年の漢字ではないですが、毎年『和』『楽』『輪』など思い浮かびます。

## 「生雲とやういひ」

生雲地区 阿武 雅己

が難しい環境の中で、作品を見ることで、〇〇ちゃんはどうくらい大きくなったかな？この子の名前は何で読んだらう？など子ども達の話題で持ち切りでした。絵も「素敵だから持って帰って飾りたい」と言う地域の方もおり、とても盛り上がっていました。早く新型コロナウイルスが終息し、子ども達が昔のようにいろんな事に取り組める日が来ることを願っています。



夢のまち「阿東東中学校」



室内での「生雲とんど」

毎年行っている「生雲とんど」、今年も一月十四日（土）に阿東地域交流センター生雲分館前広場で行う予定でしたが、天候不良のため、分館内に開催しました。地域の皆さんが持ち寄った正月飾りや、児童が書いた書き初めを囲んで、最高学年の生雲小学校五年生五名が新年の誓いを述べました。集められた正月飾り等は、後日、役員でどんど焼きを行い、地域の皆様の一年の無病息災・五穀豊穡、商売繁盛、家内安全などを祈願いたしました。新型コロナウイルスが流行する前は、子ども会と協力し、どんど焼きのあ

## 「トイ トイ」

地福地区 山本 優

今年も、「といとい」が地福各地区で開催されました。子どものころはその日が楽しみで、かなり遠くまで遠征した覚えがあります。その後世の中が豊かになり、お返しにいただいたものを粗末に扱ったり、わら馬ではなく「馬」と書いた紙で済ましたりするなど、存続が危ぶまれた時代もありましたが、先輩方のご努力により復活しました。そのおかげで平成二十四年には、国の重要無形民俗文化財にも指定されました。小正月の年中行事では、同じく国

とに、凧作り、羽子板遊び、コマ遊び、もちつきなど行った年もあります。多くの行事が中止・縮小されていて、どんど焼き自体も中止となった年もあります。しかし、地域の方の要望もあり、徐々に行事等も開催されてきています。生雲地域も人口減少が進んでいき、特に子どもの人数が減ってきています。どんど焼きなどの伝統行事を通じて、多世代の交流の場を増やし、盛り上げていくことが、必要なのではないかと考えます。



近所の玄関先で

の重要無形民俗文化財である東北のナマハゲがよく取り上げられますが子どもが主役である「といとい」は全国的にも珍しく、注目されています。近年少子化が進み、自治会や子ども会の皆さんのご尽力によりなんとか継続することができています。子ども達の思い出はずっと心に残ります。今の子どもたちにふるさと愛し続けてもらうため、私たち大人は、この良き伝統を全力で守り、たとえ遠くに住んでいても、自分のふるさととはこたといえる子どもを育てるため、がんばっていきましょう。

編集委員  
芳元 聡 松浦 富子  
賀屋 良季 阿武 雅己  
伊藤 智典 山本 優  
金子真一郎

今年、『涙』でした。涙と聞くともイナスのイメージを持たれるかもしれませんが、そうではなく自分と戦う涙、人を想う涙は素敵なんです。一生懸命だからこそ、本気だからこそ涙なんです。「アドスク」で過ごした日々を想う別れの涙は暖かい。笑って笑って笑うすぎたの涙もありました。

今年以前「アドスク」に参加した子が学生ボランティアとして帰って来てくれたり、スーパード勤している子と久しぶりに話が出来たりという嬉しい再会があり、「アドスク」が良い思い出も言ってくれました。これから参加の子も達にも「アドスク」がかけがえのない思い出、成長の糧になってくれたらいいなと思います。

**徳佐子ども会**  
ふるさと探訪  
「ナイトウォーク」  
賀屋 良季

♪さあさあ！徳佐の子ども達！  
夜のとぼりが降りる頃  
そろりと夜道を歩いてさ  
船平山においてませ



清掃活動のその後

や空き缶、ペットボトルなどゴミ袋十袋程のゴミを回収しました。中には溝の奥や草むらの奥に隠すように捨てられたゴミもあり胸が痛みます。

ゴミを捨てる人が、ゴミを拾って清掃してくれる人の気持ちや少しでも考えてもらえるとゴミを捨てる人が減ってくれるような気がする。ゴミを捨てる人は拾ってくれる人の気持ちを考えてもらえたらいいなと思います。

毎年ゴミ拾いを行ってもゴミはなかなか減らず毎年十袋程のゴミを回収しますが、毎年このゴミ拾いに協力して下さる会員のみなさまに感謝しこれからもチーン着脱所の清掃作業を続けていきたいと思えます。

朝の徳佐は良いところ！  
夜の徳佐はどんなかな？  
カボチャのおぼけも待ってるよ！

『船平山のたぬきより』  
と、今年も招待状が届きました。というワケで、徳佐子ども会の恒例行事である「ふるさと探訪」では、昨年に続きナイトウォークを十月二十一日に行いました。

夕暮れに小学生から高校生まで、二十一名の子ども達が阿東地域交流センターに集まり、まずは腹ごしらえをします。婦人会の方が地元食材を沢山使った、阿東和牛のカレーライスとサラダは絶品でした！

それから、ハロウィンの仮装にカボチャのランタンを携えて、いざ出



JR 山口線に乗車

**コミュニケーションズ**

嘉年地区  
上野 佐知子

令和四年七月十七日（日）嘉年分館ひろばで「第五回嘉年ゆうすげフェスタ」が開催されました。このフェスタは嘉年ゆめ倶楽部の皆さんが地域に植栽されたゆうすげの花の咲く季節に地域の皆さんが集い、近年薄れつつあるコミュニケーションを図るとともに嘉年地域のことを広く内外に知っていただくことを目的に始まりました。

プログラムの中の「どじょうすくい踊りコンテスト」は子どもから大



ちびっこたちのどじょうすくい

発。徳佐駅から船平山駅まで車で移動します。昨年は船平山頂までの往復を歩いたのですが、同行した保護者達がバテてしまい、翌日筋肉痛で動けない者多数（筆者調べ）との事で、今年は山口線利用促進も兼ねて、往路は夜の汽車を楽しみました。駅から船平山山頂を目指して、暗い山道をランタンの明かりを頼りに歩き、山頂ではミニゲームや記念写真を撮って、展望台から月夜に照らされた徳佐盆地を眺めます。帰路は、交流センターを目指し、道中に現れるお菓子をくれる怖いオバケに叫喚（歓声？）しながら、昼間とは異なる景色の、ふるさと阿東のナイトウォークを楽しみました。幅広い世代で交流できたと思います。

コロナ禍の終わりが見えない中ではありますが、子ども達のために思い出に残るような行事をしてあげたいと、協議を重ねながら準備をしました。無事に好評を得て終了する事ができました。



人まで誰でも参加でき、毎回、嘉年地域内外からかわいいちびっこ皆さんと、気のいい大人の皆さんが登場してくださいます。ちびっこたちのかわいいしぐさと、大人のユーモア溢れた踊りで会場が笑顔でいっぱいになり、ご来場の皆さんの会話も弾みます。

プログラムのトリは「嘉年土居神楽舞保存会」の演舞ですが、ここでもちびっこたちは大活躍です。剣を持たせてもらって大蛇を退治するパフォーマンスは場内を沸かせてくれます。

このかわいい子どもたちの姿に癒されるときに、これからの子どもたちの健やかな成長と豊かな心を育てるために私たち大人も頑張っていかなければと勇気づけられます。

「嘉年ゆうすげフェスタ」は毎年、基本七月の第三日曜日です。皆さん是非一度お越し下さい。コンテスト参加大歓迎です。

**「夢のまち・夢の絵」**  
徳佐地区  
佐伯 ちひろ

今年「夢のまち」と「自分の夢」について徳佐小学校五・六年生と阿東東中学校一年生に絵を描いてきて



かぼちゃのランタンを持って

**人づくり・地域づくり**  
篠生地区  
伊藤 智典

今年も篠生地区青少年協では篠生地区の国道や県道に面したチーン着脱所のゴミ拾いを行いました。会員全員に声をかけたかったのですが、コロナウイルスの影響で三役と理事に声をかけて十二人でゴミ拾いを行いました。昨年度迷惑行為防止のために国道沿いのチーン着脱所に赤い鳥居を設置し、ゴミが減ったような気がするという声も耳にすることができました。それでも、弁当空



夢のまち「徳佐小学校」

もらいました。いろいろな、夢のまちや将来の夢などが色鮮やかに描かれ、私はこの年代の時にこんな表現力や、色の配色など上手に描くことができていたのだろうか？とビックリしました。

「夢のまち」の絵では、阿東特産の牛やリンゴやトマト・長門映・SLなどがしっかりと描かれ、「将来の夢」の絵では、農家やスポーツ選手、警察官や動画配信者など素敵な夢が描かれていました。

阿東地域交流センターのホールに展示すると、多くの地域の方達に見てもらえることができ、未だ新型コロナウィルスが減少せず地域の方達と子ども達が、以前の様に関わること